



ときわづぶし 浮世絵を読み解く—常磐津節の明治維新—

日本伝統音楽研究センター准教授（常磐津 若音太夫）

たけうち ゆういち
わかねだゆう
竹内 有一

私の研究室にある浮世絵（版画）をクイズにしましてよ。上の図版をご覧ください（原本をご覧になりたい方は京都芸大新研究棟805室へどうぞ）。舞台では常磐津節（淨瑠璃の一種）の代表曲「積恋雪闇屏」が演じられています。さて、描かれた10人の中で仲間はずれは誰でしょうか？

まずは、左から3人目（黒い羽織）に注目。不思議な存在です。演奏や演技をしていました。後見といつて、非番の若手演奏者です。描かれているよう

な見台（注）や湯呑みを運び、万が一のときは代演をする、といった役目があると考えられます。現代の歌舞伎公演でも同様です。私も演奏家になりました頃、歌舞伎座でしばしば後見をつとめました。

謡がひとつ。後見役の役者は（右下、蠟燭をかざす人）とは違い、演奏者の後見は観客からは見えない場所に控えているはずです。この絵のよう

うに、後見が公演中に舞台に出てくることがあります。この絵のよいこと、さらにはデビュー間もない若手に対しても並ならぬ興味を抱いていたこと

（京都芸大新研究棟805室へどうぞ）。舞台では常磐津節（淨瑠璃の一種）の代表曲「積恋雪闇屏」が演じられています。さて、描かれた10人の中で仲間はずれは誰でしょうか？

まずは、左から3人目（黒い羽織）に注目。不思議な存在です。演奏や演技をしていました。後見といつて、非番の若手演奏者です。描かれているよう

な見台（注）や湯呑みを運び、万が一のときは代演をする、といった役目があると考えられます。現代の歌舞伎公演でも同様です。私も演奏家にな

りました。しかし、当時の常磐津節は、歌舞伎の市川団十郎家と同様に、江戸っ子の矜持とされたものの一つでした。しかし、豊後大掾という家元では、豊後大掾の後継者が短期間に二代続いて離縁され、リーダーの擁立に苦心。そんな中に台頭したのが6世小文字太夫でした。常磐津節の新たな逸材への熱い声援が、この一枚の絵から聞こえてくるではありませんか。

華やかな歌舞伎の舞台を描き、社会動向とは無関係に存

在するかのようにみえる一枚の浮世絵。しかし、明治維新时期の大衆心理のうつろいが、如実に反映されているのです。

この絵のよいところは、歌舞伎とその音楽は、両方の要素が入り交じって展開していくことです。

注：「見台」とは、台本（淨瑠璃本）を見るために使用する台のこと。常磐津では「たこ足」と俗称され、3本脚がトレードマーク。

私は、この絵は物語っています。ところで、クイズの正解は、この後見役ではなく、左上の棒（松皮菱紋）に囲まれた人だからです。手を隠しているからなのか、そんな雰囲気がしませんか。ではなぜ故人が描かれているのでしょうか？

人は常磐津農後大掾（前名4世文字太夫）といって、幕末期の常磐津節を盛り立てた第一人者でした。扇子を手にした中央の演奏者は6世常磐津小文字太夫。二人は親子でした。

常磐津節は、歌舞伎の市川団十郎家と同様に、江戸っ子の矜持とされたものの一つでした。しかし、当時の常磐津

節は、豊後大掾の後継者が短期間に二代続いて離縁され、リーダーの擁立に苦心。

そんな中に台頭したのが6世小文字太夫でした。常磐津節

の新たな逸材への熱い声援

が、この一枚の絵から聞こえてくるではありませんか。

この絵のよいところは、歌舞伎とその音楽は、両方の要素が入り交じって展開していくことです。

注：「見台」とは、台本（淨瑠璃本）を見るために使用する台のこと。常磐津では「たこ足」と俗称され、3本脚がトレードマーク。

日本伝統音楽研究センター図書室 (本学内 新研究棟6階)

日本の音楽・芸能に関する一般書籍・古文献・楽譜・録音映像資料・楽器等を収集する専門図書室も備えています。専門スタッフがお手伝いするレファレンスサービスもあり、どなたでも閲覧可能です。是非お越しください。<http://w3.kcua.ac.jp/jtm/>
開室日時：水・木・金曜日 10:00-12:00, 13:00-17:00

第40回公開講座のご案内

平成27年2月2日(月)午後
京都芸術センター(中京区)にて

常磐津節の魅力と伝承を見据える座談会と、名曲「新荷雪間の市川」(通称：山姥)の演奏があります。慈しみ深い山姥に育てられた無邪気な坂田金時(金太郎)が武将としてスカウトされるまでを描いた作品で、竹内准教授が金時役で出演します。常磐津らしい幅広い表現力を屈指する淨瑠璃と、物語の進行と情景を盛り立てる優れた作曲の三昧線をご堪能ください。重要無形文化財の保持団体である常磐津節保存会の協力。

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター(通称：でんおん)では、日本の伝統音楽や芸能についての研究成果を様々な形で発信し、多くの方に理解を深めていただけます。どなたでもご参加いただける講座やセミナーなどを定期的に開催しています。

祇園祭にて大船鉾の裾幕や衣装の制作など美術学部が活躍

平成26年夏、一五〇年ぶりに祇園祭の山鉾巡行に復帰した大船鉾の裾幕、音頭取りの衣装の制作に、本学教員と学生が携わさせていただきました。この取組は、美術学部の専攻横断的な授業である「テーマ演習」において実施したもので。

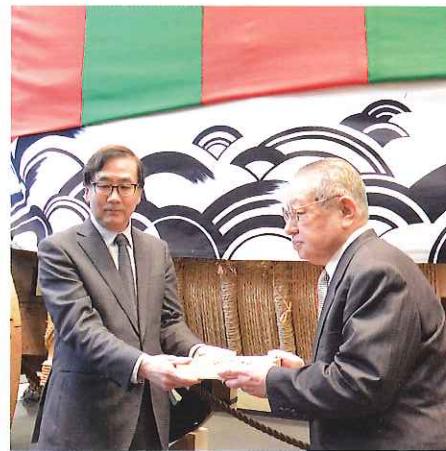
2月13日に行われた贈呈

式で、建昌哲理事長から大船鉾保存会の松居米三理事長に目録を進呈しました。7月20日に行われた大船鉾の曳き初めで披露され、詰めかけた大勢の市民や観光客を魅了しました。

また、株式会社読売連合広告社からの依頼を受け、学生がデザインしたうちわが、祇園祭の期間中に配布されました。



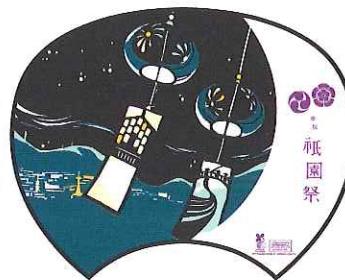
美術学部生が制作した衣装を着た音頭取り



建昌哲理事長が、大船鉾保存会理事長の松居米三氏に目録を進呈



覚野真規子さん(美術学部油画專攻4回生) デザインの手ぬぐい



西澤和樹さん(美術学部デザイン科2回生)
デザインのうちわ

広上淳一客員教授が本学オーケストラを指導

京都市交響楽団常任指揮者である広上淳一客員教授が、6月から7月までの約2週間にわたり、音楽学部・大学院オーケストラを指導しました。その成果を、6月29日に京都コンサートホールで開催した「京都ライオンズクラブ創立60周年記念チャリティコンサート」、7月3日に大阪市のザ・シンフォニーホールで東京音楽大学との共催により開催した「東京音楽大学&京都市立芸術大学 吹奏楽交流演奏会」において披露し、多くの方に御来場いただきました。



学生を指導する広上淳一客員教授

京都芸大を御支援くださるみなさまへ



京都芸大の教育研究等の充実を図るため、「京芸友の会」制度による御寄付をお願い申し上げます。「教育研究活動への助成」「大学主催の展覧会、演奏会、公開講座等への助成」などから寄付の使途を選んでいただき、皆様の御意向をふまえて活用します。

御寄付をいただいた方は、手続きを行うことで税控除や損金算入の措置が受けられる場合があります。また、一定の金額以上の御支援をいただいた方には本学からのオリジナル特典がございます。詳細は、大学ホームページを御覧ください。

問合せ 京芸友の会担当 電話：075-334-2200

御寄付をいただきました皆様への感謝の意を込め、
お名前を掲載させていただきます。

西尾商事有限会社 代表取締役 西尾太志 様

京都市立芸術大学美術学部同窓会「象の会」会長 上村淳之 様

個人の皆様からも、多数の御寄付を頂戴しております。
ありがとうございました。

※ 2014年1月から11月末までに御寄付をいただいた皆様のうち、
公表を希望された法人・団体等の方のみ記載